



先月号に続き、記念法要お待ち受け巡回 小樽地区「仏教人生講座」における川村妙慶先生のお話を先生の許可をいただき三回に分けて掲載致します。その最終回。

私たちは何を求めて生きていくのか(三)

●生き直すということ

前号では、戦わないという教えと、見方が変わることによって生き方が変わることについてお話ししました。今回はその延長として、「生き直す」ということについて考えてみたいと思います。

私たちはよく「あの時やり直せたら」と思うことがあります。しかし過去をやり直すことはできません。選んできた道をなかったことにすることもできません。それでも私たちは、その過去を抱えたまま「ここから生き直す」ことはできるのではないのでしょうか。

そしてその「生き直し」とは、過去を否定することではありません。これまでの出来事をすべて自分の歩みとして受け止め、その上で新たな一步を踏み出していくことだと思うのです。その意味で、生き直しとはやり直しではなく、「生き方の向きを変えること」であるとも言えるのではないのでしょうか。

そのことを深く教えてくれたのが、私の兄の姿でした。父が亡くなった後、兄は周囲から住職になることを求められ、強いプレッシャーの中で心を閉ざし、長い間部屋に引きこもるようになってしま

いました。私は当初、その姿をどこかで「楽をしているのではないか」と思い込んでいました。

しかしある時、思い切って兄の部屋の扉を叩きました。「自分も苦しい」と正直な思いを伝えたとき、兄は静かに扉を開けてくれました。その部屋には、ゲームなどは一切なく、代わりにびっしりと書き込まれた原稿用紙が積み重ねられていました。

兄は「その後のウサギとカメ」という物語を書いていました。負けたウサギはその後どう生きたのか、勝ったカメはどう生きたのかという物語です。その話を聞いたとき、私は胸を打たれました。人は過去の結果で終わるのではなく、そこからどう生きるかが問われているのだと教えられたのです。そしてその問いは、兄自身が自分に向けていた問いでもあったのだと感じました。

●人が人を支え、人が人を救う

その後、思いがけないご縁がありました。かつての知人（番組制作ディレクター）から「地域で困っている家庭はない？」と連絡があり、私たちの寺の状況を話すことになりました。それがきっかけとなり、兄の物語をもとに人形劇を行い、その様子がテレビで紹介されることになったのです。

兄は人前に出ることを強く拒みしました。しかし「黒子として手だけ動かすなら」という形で参加してくれました。それは兄にとって、大きな一歩でした。長い間閉ざされていた扉が、少しずつ開かれていくような瞬間でした。

放送後、かつて寺を離れていった門徒の方々が訪ねて来られました。「寺を守るのは自分たちだった」と気づかれ、再び戻ってきてくださったのです。その姿を見たとき、私は人のご縁の力の大きさを

を改めて感じました。

さらにその夜、兄が静かに語りました。「ずっとしんどかった。誰かに気づいてほしかった」と。私はその言葉を聞き、初めて兄の苦しみを理解しました。そして心から「ごめんね」と頭を下げることでできたのです。

人は人によって傷つくこともあります。同時に人によって救われる存在でもあります。誰かの一言や関わりが、その人の人生を大きく動かすことがあるのです。また、そのような出会いが重なっていく中で、人は少しずつ前に進む力を取り戻していくのではないのでしょうか。

● 私たちは何を求めて生きるのか

では私たちは、何を求めて生きているのでしょうか。健康でありたい、幸せでありたい、家族と穏やかに過ごしたい。

そうした願いは誰もが持っています。しかしそれらは決して永遠に続くものではありません。老いも病も、そして別れも避けることはできません。

だからこそ真宗の教えは、「仏となる身として生きる」という方向を示してください。私が中心になって生きようとする、思い通りにならない現実に苦しみます。しかし、阿弥陀さまの願いの中に生かされていると気づいたとき、見える世界が変わってきます。

喜びも悲しみも、すべてがご縁として与えられている。そのように受け止めることができたとき、苦しみは単なる苦しみではなくなります。そこに意味が生まれ、次の一歩へとつながっていくのです。

私の師は「お葬式は娑婆の卒業式であり、お浄土の入学式である」と申しました。いのちは限りあるものですが、そのいのちをどう生きるかが問われています。

どうか皆さんも、自分自身と出会いながら、ご縁を大切にしながら、与えられたいのちを生き切っていたきたいと思っています。そしてその歩みの中で、喜びも悲しみも含めたすべてが、自分に与えられた大切なご縁であったと受け止めていただけたらと思います。(完)

「僧侶でアナウンサー」

川村妙慶の日替わり法話



オンライン仏教講座

妙慶さんの

「心がほっとする講座」



發行所

047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (〇二三四)
FAX
テレホン法話
二三一〇七四番
二九一四〇八〇番
二七一六六番

 真宗教団連合

LINE公式
アカウント
はじめました

カメラを立ち上げて
QRコードを読み込み
友だち追加してください



心に響く 今月の法語や、
仏教の深い世界を体験できる
イベント情報などをお届けします

みなさんのスマートフォンから
毎月の法語や浄土真宗について
学ぶことができます!!

